

腎臓病診療を専門としない先生方へ

CKD サポート活動開始！

～簡単に患者紹介できる CKD 連携システムのご案内～

函館腎臓病懇談会

代表世話人 鈴木 勝雄

身近な疾患“CKD”

国内における CKD 患者数は約 1,330 万人といわれています。これは、成人のおよそ 8 人に 1 人にあたる数です。当然、函館市内にも多くの CKD 患者がいるはずですが、実際に腎専門医に紹介となるのは決して多くはありません。腎機能障害が進んで透析療法の影がちらついてくるとさすがに紹介となりますが、それ以前の軽度腎機能障害や、検尿異常のみでの紹介は非常に少ないのが現状です。

CKD を放置すると…

検尿異常や軽度腎機能障害があっても多くの場合無症状であり、何ら苦勞することなく管理することが可能だと思えます。しかし、わざわざ CKD という概念まで創設して対応が求められているのには当然理由があります。既にご承知のこととは思いますが、列挙してみますと、

- ✓ 放置すると悪くなる。
- ✓ 悪くなると透析が必要な腎不全に至る可能性がある。
- ✓ 透析治療は医療費高騰の大きな要因となり得る。
- ✓ CKD そのものが心血管疾患発症のリスクである。

などが挙げられます。

現在、函館市の医療費圧迫の一因ともなっている腎不全症例数を抑制、あるいは減少させるためにも、放置はしない方が良さそうです。

CKD への早期介入は意外と有効

「どうせ CKD は治らないから」「少く尿蛋白が出てても元気だから大丈夫」とお考えの先生方は少なくないと思えます。確かに、治らない（治せない）CKD が圧倒的に多いのですが、例外もあります。検尿異常は『早期であれば治療可能な腎疾患』発見の糸口となり得ます。例えば、IgA 腎症は今や治せる腎臓病です。『蛋白尿のみ』のような早期のタイミングで発見して早期に治療するほど治療成績は向上します。治療のチャンス逃して腎不全に至り、透析生活を余儀なくされる患者さんをひとりでも減らせるよう、もれなくチェックがなされるべきです。また、軽度腎機能障害は背後に隠れている管理不十分な生活習慣病を是正することで進行を食い止めたり、遅らせたりすることが可能なケースがあります。透析回避は難しくても、透析開始のタイミングを遅らせることが出来るかもしれません。「もう腎機能落ちてきてるからいずれは透析になる」と諦めて何もしないのではなく、その時点で出来ることを探してとことん対応することで経過の改善が図れるのです。

CKD 患者の QOL・予後改善ならびに函館市の医療費抑制のため、「打てる手があるか否か」について検討してみるの悪くないと思います。

専門医との分業でストレスのない CKD 管理を

しかし、『打てる手』について自分で検索するのはハードルが高いとお感じの先生方もいらっしゃるでしょう。そこで朗報です。この度新たに組織された“CKD サポートドクターズ”は、『打てる手』の検索に長けた腎専門医のチームです。“CKD サポートドクターズ”にご紹介いただければ、紹介元のかかりつけ医の先生と一時的な併診態勢をとりながら『打てる手』について検索し、『打てる手』を打った状態でお返しいたします。紹介の手間自体がハードルとならないので、極めて簡単・シンプルな紹介基準と紹介状も準備いたしました。ストレスなく CKD 患者の紹介・逆紹介が可能となる“CKD サポート体制”を活用することで、より充実した CKD 診療の提供を目指したいと考えています。

具体的な活用方法

- ① 『尿に異常がある』『腎機能に異常がある』『血圧や浮腫の管理に難渋している』CKD 患者の管理に悩んだり、困ったりした際に、専用の紹介状*を用いて“CKD サポートドクターズ”に紹介します。
※もちろん、従来通り、病院/クリニックで使用している紹介状で、思い通りの紹介状を作成していただいても全く問題ございません。
※※専用の紹介状と CKD サポートドクターズのリストは本ホームページからダウンロードしてご使用ください。
- ② CKD サポートドクターは病状および現行の治療内容を評価し、必要があれば調整します。病状が安定化したところで、その経過・結果についてかかりつけ医に連絡し、併診態勢は終了します。引き続き併診が必要なケースについてはその受診間隔についても連絡します。
- ③ かかりつけ医は CKD サポートドクターからの情報を参考に患者の管理を継続します。CKD サポートドクター再診のタイミング以外に受診が必要となった場合は適宜連絡を取って再診させます。

遠慮なくご紹介ください！

いかがでしょうか？

上記のように、簡単に CKD 患者を紹介できるシステムを構築したつもりです。でも、CKD 患者の数に比べて“CKD サポートドクターズ”の数が少ないため、「これくらいの異常で紹介するのは心苦しい」と紹介を躊躇してしまうかもしれません。しかし、そんな遠慮は無用です。「これくらいの異常」のうちであれば対応は容易です。短時間で終わります。患者数が増えても対応可能です。そして、早期から CKD 患者の診療に関わることで腎不全へ進展する患者数を抑制できれば、なおさら外来対応のストレスは軽減しますので、“CKD サポートドクターズ”としても積極的にこの活動に関わっていきたいと考えています。

函館市における“CKD サポート活動”が遂に始動します。ご協力、ご紹介のほど、よろしくお願いいたします。

<各種問い合わせ・資料請求先>

函館腎臓病懇談会 事務局

〒041-0851 北海道函館市本通 1 丁目 7-20

五稜郭ネフロクリニック

TEL 0138-31-1717

FAX 0138-31-1788

メール goneph@msd.ncv.ne.jp